

2. 施策の体系 《2つの横断的な目標》

方針	横断的な目標	目標	具体的な施策の例
第3子が安心して産める「なめらかなまちづくり」 幸田町の体力（産業力）増進と魅力発信により、	5. 多様な人材の活躍を推進する	多様な人材が活躍できる環境づくりとともに、若者、高齢者、女性、障がい者、外国人など、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域づくりを推進します。 ■数値目標 アンケート「多文化共生の推進」施策について、「やや満足+満足」の回答割合（%）	●人材育成 ・ものづくり人材育成 ●防災 ・安全テラスセンター24の運営、防災啓発・普及活動の推進等 ●多文化共生 ・外国籍町民会議、まちを知るツアー、外国人受入れ環境整備等 ・空き家等の利活用促進
	6. 新しい時代の流れを力にする	「未来技術」を導入し、移動・物流サービス、オンライン医療やIoTを活用した見守りサービス等により、利便性の高い生活を実現します。また、「SDGs」を掲げつつ、経済・社会・環境に関する広範な課題解決を図っていきます。 ■数値目標 IoT推進の取組回数（回/年）	●Society5.0の推進 ・IoT推進ラボ ・次世代産業創出等 ●地方創生SDGsの実現 ・環境学習推進 ・国家戦略特区等を活用したスーパーシティ構想の推進等

3. 第2期総合戦略の事業展開（分野横断的な取組）

第2期総合戦略では、以下の事業展開において、複数分野の施策を相互に連携して取り組むことによる相乗効果を期待し、「なめらかなまちづくり」を目指します。

事業名	該当する目標	主な内容
ロケツーリズムの推進	■2.多様な人の流れを育て、町の魅力を高める ■4.つながる人と地域を育てる	○映画、ドラマ等のロケ地を観光資源とする「ロケツーリズム」を通じて、地域の活性化や町のシティプロモーションを図ります。
安全テラスセンター24の運営	■4.つながる人と地域を育てる ■5.多様な人材の活躍を推進する	○「災害に強いひとづくり」を目標とし、「テラス」を設置して地域防災を支える人同士の交流や連携を構築できる仕組みをつくりまします。
シニア・シルバー世代サポート推進事業	■1.町ならではの仕事を育て、安心して働けるようにする ■4.つながる人と地域を育てる	○シニア・シルバー世代の活躍の場の創出や健康、生きがいづくり、地域への貢献を推進します。
空き家等の利活用促進	■2.多様な人の流れを育て、町の魅力を高める ■4.つながる人と地域を育てる ■5.多様な人材の活躍を推進する	○空き家等の集会所等への利活用や、古民家のリノベーションによって外国人を含む新たな住民の受入れや魅力を発信します。 ○空き家（空き施設）を活用した多文化共生に係る拠点整備等を検討します。
スーパーシティ構想	■4.つながる人と地域を育てる ■6.新しい時代の流れを力にする	○農村集落と耕作放棄地を活かして事前防災と発災時にもデュアルモードに対応する「安全・安心」なまちづくりに向けた取組を推進します。
多世代交流施設の活用	■3.子どもを育て、みんなを元気にする ■4.つながる人と地域を育てる	○子どもからお年寄りまで年齢に分け隔てなく来館し、交流を図ることができる施設において、地域で子どもを育てる土壌をつくり、女性の子育てと仕事の両立を支援します。

第2期 幸田町まち・ひと・しごと創生 『人口ビジョン』『総合戦略』 <概要版>

1. 策定背景

日本の人口は、2008年の1.28億人をピークに減少に転じ、2055年には1億人を切り9,700万人程度となり、2100年には6,000万人を割り込む水準まで減少すると推計されています。（国立社会保障・人口問題研究所より。以下「社人研」という。）

一方、本町の人口は、豊かな自然環境のもと、コンパクトなまちで暮らしやすいことや産業の安定などを背景に、近年も増加傾向にあることから（令和2（2020）年10月1日現在42,497人）、今後も人口が安定的に増加する地方モデルの一つとして他の自治体をリードする戦略づくりを行いました。

2. 目標年次

第6次総合計画は、令和7（2025）年度を目標に、基本理念を「人と自然と産業の調和」、都市像を「みんなでつくる 元気な幸田」としています。

本計画の人口ビジョンは、国の総合戦略と同様、45年後の令和42（2060）年度を目標年次とし、第2期総合戦略は、5年後の令和7（2025）年度とします。

	H27 (2015)	R2 (2020)	R3 (2021)	R7 (2025)	R42 (2060)
人口ビジョン					2060
第1期総合戦略	2015~2020				
第2期総合戦略		2021~2025			
第6次総合計画	2016~2025				

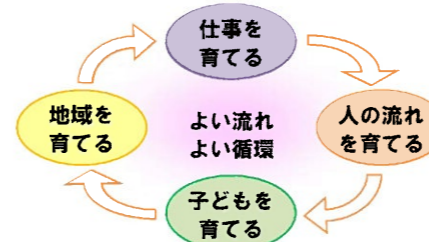
3. 本町が目指すもの

町の第2期総合戦略では、『しごと』が『ひと』を呼び、「ひと」が『しごと』を呼び込む、そして、この好循環を支えるまちの活力向上を実現するため、官民一体で取り組むべく、「幸田町総合戦略推進委員会」を設置して推進しています。

第2期総合戦略策定にあたって、推進委員会において、「町全体の人口は増加しているが、地域ごとに見ると減少している地区もある」、「人口が増加しているも、新興住宅地住民と集落住民との間でコミュニティや世代のつながりの希薄化、外国人との共生などの問題を抱えていることから、なめらかなつながり（自然にコミュニケーションが図れる状況）が必要」、「子育てに不自由しない環境づくりが重要」、「安定した税収に支えられることが重要」などの意見をいただきました。

こうした意見を踏まえ、第2期総合戦略では、第1期での目的と方針を継承し、「人口増加維持（さらなる成長）と地域活性化」を実現するため、戦略づくりのスローガン（方針）として『幸田町の体力（産業力）の増進と魅力発信により、第3子が安心して産める「なめらかなまちづくり」』を掲げます。

「しごと」「ひと」の好循環のイメージ



しごとがひとを呼び、ひとがしごとを呼び込む、そして、この好循環を支えるまちの活力向上を実現するため

官民一体で取り組む「幸田町総合戦略推進委員会」

豊かな自然と仕事があり、人口減少社会において人口が増加している元気なまちだが、多様な人がともに楽しく暮らせて、子育てにも不自由しない、安定した税収に支えられる、もっと幸せなまちにならないか…。

●目的：『人口増加維持（さらなる成長）と地域活性化』

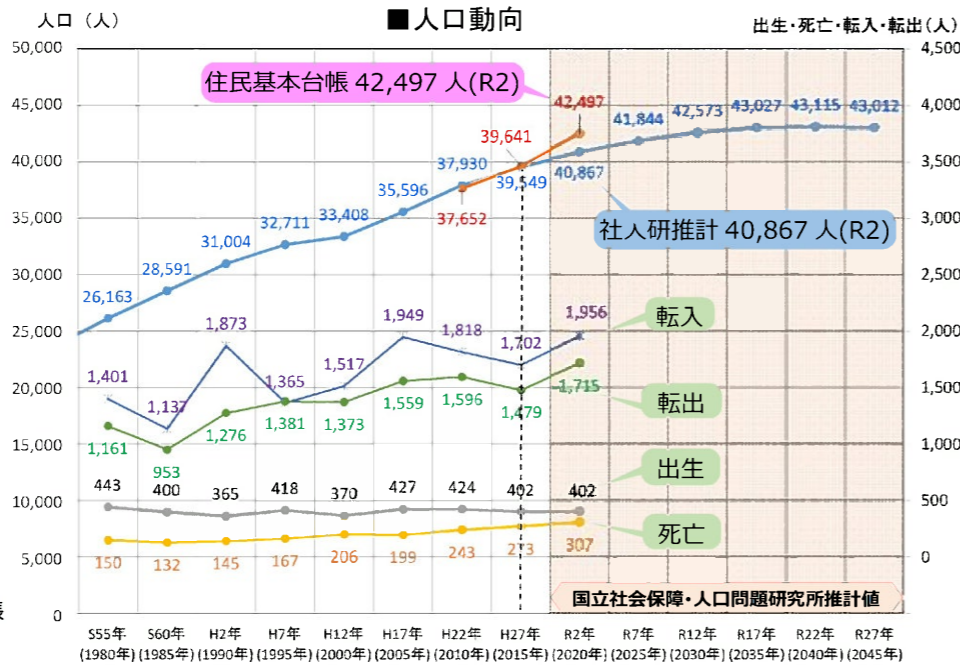
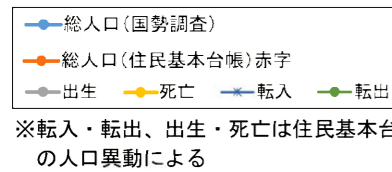
●方針：『幸田町の体力（産業力）増進と魅力発信により、第3子が安心して産める「なめらかなまちづくり」』

『人口ビジョン』

1. 人口に関する本町の特徴

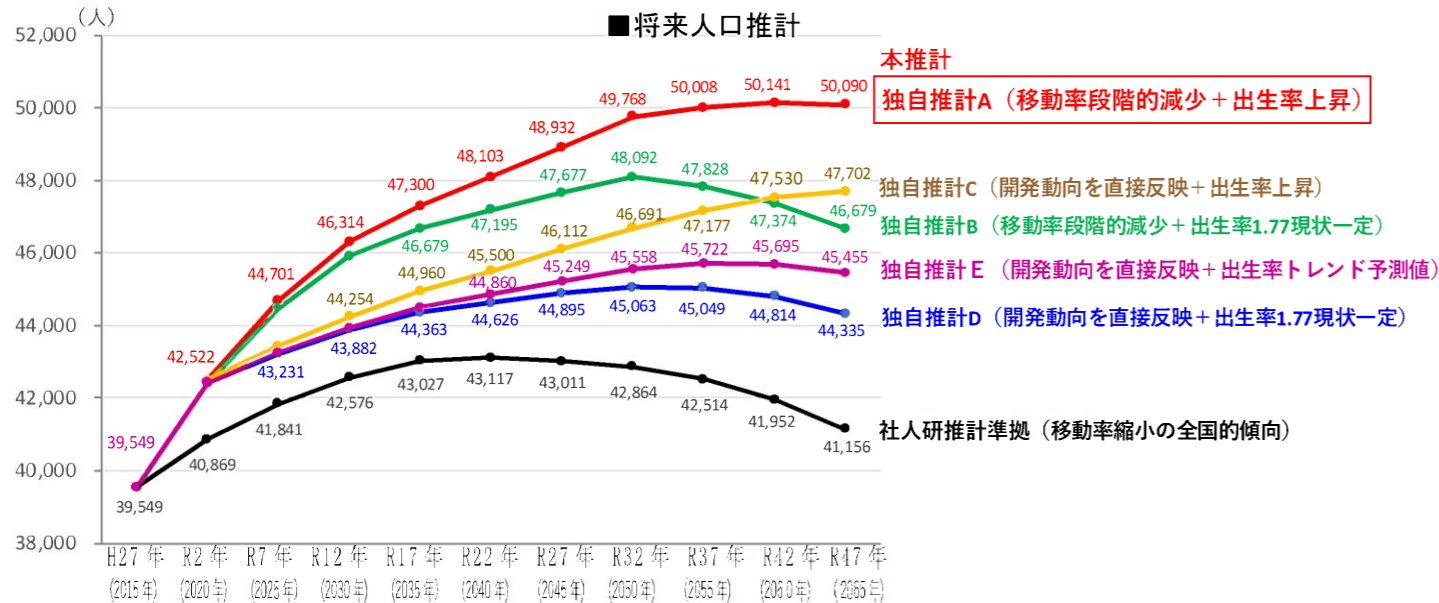
本町の人口は、産業立地等により就業者等の定住化が進み、総人口（国勢調査）は平成 27（2015）年に 39,549 人となりました。

社人研の推計では、令和 2（2020）年の総人口は 40,867 人となっていますが、住民基本台帳人口では 42,497 人で、国の推計を上回っており、今後しばらくは増加するものと予測されます。



2. 将来人口の推計と分析

本町の将来推計人口について、社人研の推計では令和 2 年時点で現状が推計値を上回っていることから、下記の独自推計 A~E を行いました。この中で、合計特殊出生率の上昇（人口置換水準の 2.1）と移動率が段階的に減少する「独自推計 A」を戦略の本推計とします（総合計画の将来目標「5 万人」は令和 37（2055）年に到達）。



3. 本町の人口ビジョン

右の人口ビジョンの実現には、合計特殊出生率の向上と社会移動（転入増）の維持が必要であり、そのための施策を『総合戦略』で展開します。

現況		総合戦略		
国勢調査 平成 27 年 (2015 年)	住民基本台帳 令和 2 年 (2020 年)	令和 7 年 (2025 年)	令和 37 年 (2055 年)	令和 42 年 (2060 年)
39,549 人	42,497 人	44,700 人	50,000 人	50,100 人

『総合戦略』

1. 戦略の方向

第 2 期総合戦略の 4 つの基本目標「1. 町ならではの仕事を育て、安心して働けるようにする」「2. 多様な人の流れを育て、町の魅力を高める」「3. 子どもを育て、みんなを元気にする」「4. つながる人と地域を育てる」および 4 頁に示す 2 つの横断的な目標に基づく施策により、人口ビジョンの実現を目指します。

2. 施策の体系 《4 つの基本目標》

方針	基本目標	目標	具体的な施策の例												
幸田町の体力（産業力）増進と魅力発信により、第 3 子が安心して産める「なめらかなまちづくり」	1. 安心して働けるようにする	<p>従来地域産業を最大限活かすとともに、産業構造の変化へ柔軟に対応し、多種多様な産業育成を促進し、産金官学等の連携により、活力ある幸田を幅広く発信します。</p> <p>■主な数値目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基準値</th> <th>目標値(R7)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製造品出荷額等</td> <td>10,610 億円(H30)</td> <td>11,000 億円</td> </tr> <tr> <td>新規就農者数</td> <td>1 人(R1)</td> <td>5 人</td> </tr> <tr> <td>年間商品販売額</td> <td>507 億円(H28)</td> <td>550 億円</td> </tr> </tbody> </table>		基準値	目標値(R7)	製造品出荷額等	10,610 億円(H30)	11,000 億円	新規就農者数	1 人(R1)	5 人	年間商品販売額	507 億円(H28)	550 億円	<ul style="list-style-type: none"> ●製造業の育成・支援 <ul style="list-style-type: none"> ・次世代産業創出 ・企業活動支援 ・ものづくり人材育成等 ●農業の振興と高度化 <ul style="list-style-type: none"> ・農業・福祉連携事業 ・ITを活用した農業推進等 ●商業振興の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・経営支援 ・シニア・シルバー世代サポート推進事業等
		基準値	目標値(R7)												
	製造品出荷額等	10,610 億円(H30)	11,000 億円												
	新規就農者数	1 人(R1)	5 人												
年間商品販売額	507 億円(H28)	550 億円													
2. 多様な人の流れを育て、町の魅力を高める	<p>観光の育成及び関係人口の創出とともに、交流を推進するために必要な道路整備や公共交通の充実等により、人の流れを生み出すとともに、定住化に向けた居住環境整備を支援します。</p> <p>■主な数値目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基準値</th> <th>目標値(R7)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定住人口</td> <td>42,292 人(R1)</td> <td>44,700 人</td> </tr> <tr> <td>幸田駅、三ヶ根駅、相見駅の乗車客数</td> <td>6,858 人/日(R1)</td> <td>7,700 人/日</td> </tr> <tr> <td>「町に住み続けたい」と思う人の割合</td> <td>61% (H30)</td> <td>65% (R6)</td> </tr> </tbody> </table>		基準値	目標値(R7)	定住人口	42,292 人(R1)	44,700 人	幸田駅、三ヶ根駅、相見駅の乗車客数	6,858 人/日(R1)	7,700 人/日	「町に住み続けたい」と思う人の割合	61% (H30)	65% (R6)	<ul style="list-style-type: none"> ●観光育成及び関係人口拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・外国人を含む交流人口の拡大 ・ロケツーリズムの推進等 ●交通ネットワークの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・交通ネットワークの整備 ・交通軸の形成等 ●定住環境の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・空き家等の利活用促進 ・三ヶ根駅周辺の整備、活性化等 	
	基準値	目標値(R7)													
定住人口	42,292 人(R1)	44,700 人													
幸田駅、三ヶ根駅、相見駅の乗車客数	6,858 人/日(R1)	7,700 人/日													
「町に住み続けたい」と思う人の割合	61% (H30)	65% (R6)													
3. 子どもを育て、みんなを元気にする	<p>子どもを産み、育てたいと思える社会やまちづくりに向けて、子育てと仕事の両立を支援するとともに、第 3 子が安心して産める環境づくりを推進します。</p> <p>■主な数値目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基準値</th> <th>目標値(R7)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年少人口</td> <td>7,079 人(R1)</td> <td>7,420 人</td> </tr> <tr> <td>保育所等の 3 歳未満児の受入れ人数</td> <td>237 人(R1)</td> <td>280 人</td> </tr> <tr> <td>各種健診受診者数</td> <td>6,149 人(R1)</td> <td>6,400 人</td> </tr> </tbody> </table>		基準値	目標値(R7)	年少人口	7,079 人(R1)	7,420 人	保育所等の 3 歳未満児の受入れ人数	237 人(R1)	280 人	各種健診受診者数	6,149 人(R1)	6,400 人	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援 <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターの設置 ・3 歳未満児の受入れ拡充等 ●教育環境の育成・支援 <ul style="list-style-type: none"> ・G I G A スクール構想の推進等 ●医療環境の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・各種健診の経済的支援等 	
	基準値	目標値(R7)													
年少人口	7,079 人(R1)	7,420 人													
保育所等の 3 歳未満児の受入れ人数	237 人(R1)	280 人													
各種健診受診者数	6,149 人(R1)	6,400 人													
4. つながる人と地域を育てる	<p>地域の自然や歴史・文化を活かしつつ、様々なコミュニティをなめらかにつなぐまちづくりを推進し、安全・安心な暮らしを守ります。</p> <p>■主な数値目標</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>基準値</th> <th>目標値(R7)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>刑法犯罪の発生件数</td> <td>209 件(R1)</td> <td>190 件</td> </tr> <tr> <td>こにちは赤ちゃん家庭訪問実施率</td> <td>94%(R1)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>多世代交流施設の利用者数</td> <td>34,827 人(R1)</td> <td>41,000 人</td> </tr> </tbody> </table>		基準値	目標値(R7)	刑法犯罪の発生件数	209 件(R1)	190 件	こにちは赤ちゃん家庭訪問実施率	94%(R1)	100%	多世代交流施設の利用者数	34,827 人(R1)	41,000 人	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティ・高齢者支援 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問事業の推進等 ●自然環境の保全・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全・新 I 礼館等 ●歴史・文化の保存・継承 <ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存等 ●防災・防犯・交通安全 <ul style="list-style-type: none"> ・安全テラスセンター 24 等 ●なめらかなまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・多世代交流施設の推進等 	
	基準値	目標値(R7)													
刑法犯罪の発生件数	209 件(R1)	190 件													
こにちは赤ちゃん家庭訪問実施率	94%(R1)	100%													
多世代交流施設の利用者数	34,827 人(R1)	41,000 人													